報 告

災害フォーラム「強風による災害 —わかっていることと被害軽減への備え」 in 野田 Forum on “Disaster by Strong Winds – Understandings and Preparations for Damage Mitigations” in Noda City

木村吉郎^{*1} 前田潤滋^{*2} 野田 稔^{*3}

Kichiro KIMURA, Junji MAEDA, Minoru NODA

1. はじめに

平成26年11月14日(金)の午後、日本風工学会の主催、千葉県野田市の後援により、災害フォーラム「強風による災害 —わかっていることと被害軽減への備え」が、野田市役所の大会議室にて開催された。本フォーラムは、竜巻などの強風による建物等の被害の実態とその備えについて、市民や自治体職員などへ分かり易い解説を提供するとともに、参加者との意見交換を行うことによって、防災意識の普及・向上を図り、強風災害発生時の被害低減への一助になることを目指して開催されたものである。1年余り前の平成25年9月2日に、埼玉県さいたま市・越谷市から野田市にかけて発生したフジタスケールF2の竜巻によって、野田市でも大きな被害を受けており、住民の関心も高いと考えられたことから、野田市民生活課の方々に依頼し、そのご協力を得て実施された。一般住民や市職員、防災関係機関など、40名程度の参加人数があった。フォーラムはまず、風災害調査連絡委員会委員長の前田(九州大学)によるフォーラム開催の経緯と趣旨説明があり、続いて3題の講演が行われ、最後に会場からの質疑応答を行った。以下にその概要を報告する。

写真1 講演の様子

2. 講演内容

(1) 強風の正体

風災害調査連絡委員会の小林文明副委員長(防衛大学校)により、積乱雲に伴う突風、竜巻から身を守る、竜巻の観測とナウキャスト、の3つのテーマについて解説があった。まず、竜巻の頻度や発生場所、発生原因など、その特性が示され、さらに竜巻に対する身の守り方が説明された。そして、新しい突風観測の事例についても紹介された。

*1 東京理科大学理工学部 教授

Professor, Faculty of Science and Technology, Tokyo University of Science

*2 九州大学大学院人間環境学研究院 教授

Professor, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

*3 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

Associate Professor, Institute of Technology and Science, Tokushima University

写真2 会場の様子

(2) 建物の強風被害 — 竜巻による被害を中心に —

風災害調査連絡委員会幹事の野田（徳島大学）により、特に平成25年9月のさいたま市～越谷市～野田市の竜巻と、平成24年5月6日の茨城県・栃木県の竜巻に重点において、強風による建物の被害について解説された。強風の風圧や吸い上げ、飛散物による被害、道路のアスファルトの剥離・飛散被害等について紹介があった。

(3) 近年の強風被害の特徴と被害軽減対策・竜巻への備え

風災害調査連絡委員会の奥田泰雄委員（国土技術政策総合研究所）により、近年の建築物等の強風被害の特徴と、強風被害軽減等対策について解説があった。まず被

害の事例や傾向が示され、続いて、内閣府竜巻等突風対策 局長級会議の経緯や対応方針、また、防災教育の充実や建築物の被害軽減策の在り方、被災者支援の在り方が紹介された。最後に、強風災害に対する被害認定基準の適用について解説された。

(4) 質疑応答

フォーラムの最後に質疑応答が行われた。気象をどのように考えていくか、また、竜巻の特性に関するものや、地元の野田市での発生頻度やそのメカニズムなど、活発な質疑が行われた。

3. おわりに

本フォーラムは、風災害調査連絡委員会・風災害研究会の活動の一環として開催された。竜巻などを含めた強風災害に対し、地域住民や自治体職員の方々などの防災意識の向上や、地域防災力の向上の一助となれば幸いである。

謝辞

今回のフォーラムの開催にあたり、野田市の後援を得ました。また、会場準備や地域の方々への広報など、野田市民生活課の方々には大変ご協力を頂きました。末筆ながら記して謝意を表します。

写真3 質疑応答の様子（その1）

写真4 質疑応答の様子（その2）